

## 環境に配慮した取り組み

### ～ 飛騨トンネルの湧き水を利用した水力発電の導入～

東海北陸道 飛騨トンネルは、2008年7月に営業を開始しましたが、工事中は湧き水の対策に苦慮しました。

飛騨トンネルの湧き水は、トンネル非常用設備などの水源として極一部を利用しています。

湧き水は近隣の荘川に放流していますが、その量は約0.7m<sup>3</sup>/秒であり、15万人都市（名古屋市千種区）の一日の水道使用量と同じ位になります。

NEXCO中日本では、荘川に放流している湧き水を有効利用して、**水力発電を実施**することを計画しました。

発電した電力は**トンネル照明などへ供給**して、CO<sub>2</sub>排出量の削減による環境負荷の低減に役立てます。

発電する電力量は約50KW/時間を計画しており、**年間で約41万KWhの購入電力削減**になり、飛騨トンネルの年間使用照明電力の**約30%の削減（約400万円/年）**になります。

水力発電はNEXCO中日本として初めての取り組みであり、「高速道路関連社会貢献協議会」の支援により環境保全対策を推進するものです。

高速道路関連社会貢献協議会では、9月11日からホームページにて工事の公募を開始しました。 ホームページ：<http://www.kousoku-shakaikouken.jp>

#### CO<sub>2</sub>の削減に関する効果

195t・CO<sub>2</sub>/年



#### 荘川への湧き水の放水状況



#### 水力発電イメージ

